



(題字・野口孝重先生)

発行所 名城大学電気会

名古屋市中区塩釜一丁目501番地

電話(052)832-1151

名城大学理工学部電気電子工学科内

編集責任者 渡辺典保

印刷 常川印刷株式会社



## 名城大学電気会第48回通常総会のご案内

名城大学電気会会長 **渡辺 典保**

(I部56年卒)

名城大学電気会(以下電気会)会員の皆様には、各地各方面でご活躍のことと深くお慶び申し上げます。

また日頃より本電気会の活動にご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

近年弱電業界での海外勢の攻勢や震災、水害、諸外国との対応の影響で日本経済は厳しい状況に追い込まれました。

昨年来よりアベノミクス効果により国内的にも対外的にも経済活動が活発になり、また東京でのオリンピックの開催も決まり活気が戻りつつあります。

愛知県の代表的産業である自動車、航空機業界では為替の追い風も有りリーマンショック以来の業績になるとの見通しも出ております。

取り分け電気電子技術は産業や生活を支える基盤となる技術であり、昨今ではスマートホンやインターネットが無ければ始まらないほどになってきました。

技術の進歩と共に複雑化し一分野だけでは成り立たず、いろいろな分野の技術が互いに協力し合うことが必要となっておりまして。

名城大学電気電子工学科を卒業された方々は電力業界、製造業、これらを支える制御、工作機械、通信関連、情報サービス関係企業等幅広い分野でご活躍されております。

電気会では大学の先生方や卒業生の方々が集い、情報交換や協力出来る場にしていきたいと存じます。

昨年電気会創立50周年記念祝賀会では200余名の方がお集まりいただき盛大な会を催すことが出来ました。

これも一重に名城大学の皆様と電気会会員の皆様のお蔭です。

ただ、他の行事も含め若い方々の参加が少なく、また理工学部の学科数が増えることで電気電子工学科の卒業生が減りそれに伴って電気会の新規に加入する人が減ることが予想されます。

これからも電気会を発展させ、母校名城大学にも貢献するためにも、先輩諸氏の御指導、中堅どころの御協力、若い人達の積極的な参加が不可欠となります。

企業内での同窓生の繋がり、研究室卒業生の繋がりもしっかりしたものが有ります。

その輪を相互に結びつけることによって若い人達にも名城大学や電気会行事に参加して頂き、より強い絆が作れま

すよう皆様の後輩たちへの声掛けもよろしくお願いいたします。

今年度は会員の皆様への情報発信の場として電気会のホームページのリニューアルも予定しております。

これによりレスポンスの良いご案内やご報告が出来ることになると思います。

名城大学天白キャンパスも開学100周年に向けて大きく変わってきました。

久にぶりに母校を訪れびつくりされる方も多々おみえになります。

電気会の行事には先生方も参加されてみえます、懐かしい恩師や研究室、新しくなった母校に会いには是非とも名城大学、電気会の活動にご参加ください。

初めて行事に参加される際にはどうすればいいか不安に思われる方もみえると思いますが、参加されている方は皆様気さくな方ばかりで、分からないことが有れば電気会役員に声を掛けて頂ければお応えいたします。

各界でご活躍されているいろいろな方と話が出来て良い経験になると思います。

是非とも同期、職場、研究室OBの方をお誘いの上ご参加願います。

今後電気会活動へのご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。

### <平成25年度電気会活動紹介>

1. 第47回 電気会総会、理工同窓会総会
2. 研究室対抗ソフトボール大会支援とOBチーム参加
3. 新春懇談会の開催 平成26年2月15日 名城大学天白キャンパス
4. 電気電子工学科 卒業式(卒業証書授与式)参加・卒業祝賀会共催
5. 役員会、評議委員会開催 1回/月
6. 卒業研究発表への電気会から聴講
7. 名城大学電気会ホームページの更新 各行事案内・報告
8. 浜岡原子力発電所見学会開催 平成25年6月9日(日)
9. 名城大学校友会主催のさんすい会への講師派遣
10. ホームカミングデイ等大学行事への参加、協力

## 名城大学電気会第48回通常総会開催要領

日時 平成26年6月15日(日)  
受付: AM 9:00~  
開始: AM 9:30~10:20  
受付でご芳名を記帳願います。

議題: 1. 平成25年度経過報告  
2. 平成25年度会計報告、監査報告  
3. 電気会役員、評議員改選  
4. 平成26年度事業計画及び予算案  
5. その他

場所 名城大学 共通講義棟南 S401 室



## 電気電子工学科長あいさつ

電気電子工学科長 山中 三四郎

電気会会員の皆様におかれましては益々ご健勝、ご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日頃より電気電子工学科発展のために何かとご支援、ご助力を賜り、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

さて、私、このたび2年間の任期(平成26年4月から平成28年3月)で学科長を拝命いたしました。この間、電気会の会員の皆様には何かとご協力を仰ぐことになるかと思いましたが、よろしく願いいたします。

最初に、電気電子工学科を取り巻く環境の変化についてご報告いたします。電気電子工学科はOBの皆様のご活躍により中部地区では高い評価を得ており、少子化にもかかわらず安定した運営が可能となっています。ところが、2013年4月に中京大学八事キャンパスに工学部電気電子工学科が開設されました。現在のところメカトロ中心のカリキュラムのようですが、今後の展開は予断を許しません。さらに、南山大学理工学部は2014年4月に瀬戸キャンパスから名古屋キャンパスに移転しました。現在、電気に関係の深い学科としてソフトウェア工学科と機械電子制御工学科が開設されています。これも今後の影響が注視される所です。名城大学理工学部はOBの皆様、教員一同の努力はもちろんですが、交通の便をうまく生かして現在の様な評価を受けるに至っているのも事実です。名城大学の近辺に電気系の学科ができること、しかも2大学ともネームバリューは抜群でありますので、今後厳しい競争を覚悟する必要があります。

これに対する対策の一つとして最初に系入試制度の廃止が挙げられます。皆様よく御存知とは思いますが、系入試制度とは入学時に配属先の学科を決めず、1年間勉強した後学科に配属する制度です。この系入試制度が2013年度の入学生から10年ぶりに全面的に廃止されました。これにより進学塾による電気電子工学科の評価はずいぶん上がりました。

系入試制度廃止を機会に電気電子工学科はカリキュラムの全面見直しを行いました。最も大きな変更はコース制の導入です。近年、電気電子工学科の学問領域は急速に拡大しており、教育ですべてを網羅することには無理があります。そこで、電気電子工学科では「電気工学コース」と「電子システムコース」に分けることにしました。といひましても、厳格な区別をすることは考えていません。勉強の方向性を指し示

す程度で、卒業研究、就職に関してはどちらのコースを選択しても変わらないような緩やかなコース制です。コースの選択は1年生修了時に実施します。2013年度入学生は1月にコース分けを実施しました。その結果、学生の希望は電気工学コース:88名、電子システムコース:57名(2名欠席)と電気工学コースに希望者が集中しました。このままではコースにアンバランスが生じてしまいますので、調整した結果、電気工学コース:76名、電子システムコース71名となりました。

理工学部には新しい実験棟の建設計画もあります。平成23年4月に新実験棟Ⅱが完成しました。残念ながら電気電子工学科はこの建物に入ることができませんでした。この建物へは4号館に居室がある学科が移転しました。今、4号館の教室を賄うために4号館の一部を取り壊し新講義棟の建設が進んでいます。これが完成したら、4号館を完全に解体し、新実験棟Ⅲを建設する予定になっています。完成は平成32年の予定ですが、設計のため各学科の意見集約が始まっています。新しい建物も面積に限りがあるため、各学科の意見を集約するのは大変ですが、なるべく教育効果が上がるように努力していきたいと思っています。

最後に、一つ残念な報告があります。平成26年3月をもちまして下山宏教授と林和彦准教授が定年退職を迎えられます。下山宏教授は平成4年4月に名城大学へ赴任され、22年間名城大学のために活躍いただきました。皆様もよくご存じのように、この間、理工学部学部長として4年間、名城大学学長として4年間激務をこなしてこられました。一方、林和彦准教授は昭和56年4月に名城大学に赴任され、33年の長きにわたり電気電子工学科を支えていただきました。ベテランの先生が二人退職されるのは残念ですが、これまでのご活躍に深く感謝するとともに、いつまでもご健康であられますように祈念しております。

以上、この紙面をお借りして近況を報告いたしました。電気電子工学科の取り巻く環境が日増しに厳しくなっております。教員一同最大限の努力を惜みず、環境整備に努める所存ではありますが、今後電気会の会員の皆様のご協力を仰ぐ機会も増えてくると思われます。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



## 退任ご挨拶

名城大学前学長  
電気電子工学科教授 下山 宏

平成 26 年 3 月 31 日付けで定年退職を迎えるにあたり、一言、ご挨拶申し上げます。

私は、平成 4 年（1992 年）4 月 1 日付けで、赤崎 勇 教授、天野 浩 講師（当時：現名古屋大学教授）と共に、名城大学理工学部電気電子工学科の教授として採用され、爾来、22 年間の長きにわたり名城大学にお世話になりました。着任した翌年より、学科長を 7 年間（主任教授 2 年間＋協議員 4 年間＋主任教授 1 年間を兼務）、1 年おいて協議員を 2 年間、引き続き理工学部長を 4 年間、学長を 4 年間務めることになりました。この間、電気会はもとより、台湾を含む全国各地の多くの名城大学卒業生と胸襟を開いて語り合う機会を多く持つことができ、彼ら（彼女ら）の全国各地での活躍ぶり、と深い母校愛に胸を打たれたものでした。

大学の発展にとって、卒業生と大学の間の深い連携は何よりも大切なものであります。その基本になるものは、学生が卒業するときに、「自分は名城大学で学び、名城大学を卒業することができて本当によかったなあ」と思ってくれる気持ちです。教員にとってそのために必要なことは、教育の質の保証、即ち講義・学生実験・ゼミ・卒業研究・大学院研究活動などを通じて、学生自身の問題解決能力・課題探求能力を養成し、確固たる教育的付加価値を身につけた人材育成を目指すことです。勿論、学生自身もこれに役立てなければなりません。確固たる教育的付加価値を身につけて卒業していった学生たちは、社会という大海原

の荒波の中においても、決してへこたれることなく活躍してくれることでしょう。「名城大学を卒業してよかった」という気持ちを持って母校である名城大学を出航していった卒業生たちは、いろいろな機会を通じて母校に顔を出してくれることでしょう。

私は卒業生に対していつも「母校は母港に通ずる」と言ってきました。母校というのは、文字通り、母なる学び舎、即ち、自分がそこで学び、卒業した学校のことを意味すると同時に、母なる港、即ちその船が根拠地としている港のことをも意味します。母なる学び舎である母校を卒業して社会に出て行った卒業生は、母なる港である母港を出航して大海原に出て行った船そのものであります。母港を出航した船は、遅かれ早かれ必ず母港に戻ってきます。時には不漁のときもあるでしょうが、反対に、大漁旗を掲げて意気揚々と帰ってくることもあります。港を出入りする船の数が多ければ多いほど港は栄えます。卒業生の皆さんは、機会を見つけてできるだけ母校である名城大学に足を運んで下さい。

最後に、ケネディ大統領の言葉ではありませんが、「大学が卒業生のために何をしてくれるのかを問うのではなく、卒業生が大学のために何を成すことができるのかを問いなさい」を贈りたいと思います。

名城大学電気会のますますのご発展を祈念致します。22 年間大変お世話になりましたことを厚くお礼申し上げます。有難うございました。



## 名城大学33年間を顧みて

電気電子工学科准教授 林 和彦

昭和 56 年（1981 年）3 月名古屋大学を退職し、同年 4 月に古田先生の後任として、講師として着任しました。以来 33 年の年月が流れ、本年 3 月末に定年退職することとなりました。この間電気会の役員の方々、会員の皆様方にはいろいろな面でお世話になりました。心から感謝申し上げます。

赴任当初は「ブラシレスモータ」、「誘導機のベクトル制御」などの研究を行っていましたが、その後「マルチレベル型電力変換器の制御」、「無効電力制御用変換器の制御」などの研究に移り、最近では「分散電源用ハイブリッド型インバータ」、「電力用アクティブフィルタ」、「風力発電機の MPPT 制御」、「直並列補償型 UPS」などの研究を行い、理想的な電力制御法について検討してきました。卒研究生は「ご両親から預かっている大切なご子息」との意識で、卒研は社会へ出るための準備期間と考え、時には厳しく接したこともありました。ここ 10 年ほど遠ざかっていますが、以前には週 2 回程度東山

公園まで卒研究生達とジョギングをして汗を流し、各地のジョギング大会に参加していました（ハーフマラソンが主）。今は懐かしい思い出です。私のゼミからの卒業生は計 230 名、修士課程修了者は計 11 名でした。

カリキュラムは何度も改訂され、学生が学ぶ内容も多様化してきました。社会構造の複雑化、デジタル化の進行に伴う装置のブラックボックス化などが影響しているのか、エンジニアとしてのセンスがなかなか育たず、これが悩みの種でした。しかし、興味を抱く方向へ道筋を示し、環境を整えてやると、自発的に進めていく優秀な学生も沢山います。日本もまだ捨てたものではないと思っている次第です。

今後の電気電子工学科、電気会の益々のご発展と会員の皆様方のご活躍、ご健康を祈念してお別れとさせていただきます。長い間ありがとうございました。

# 名城大学電気会創立50周年記念行事開催

## Commemorative ceremony 電気会

電気会創立50周年記念行事が盛大に行われました。

平成25年1月27日(日)に、名古屋ガーデンパレスで、名城大学電気会創立50周年記念行事が開催されました。一番大きい広間でも所狭しと集まった参加者は、217名でした。電気会50周年記念式典実行委員会は、2年前に、5つの委員会(総務委員会、記念誌委員会、企画委員会、行事委員会、講演会委員会)を、発足させこの日のために準備をすすめてこられた役員たちの熱意が会場いっばいに伝わりました。開催に先立ち、午後4時から鼓の間に於いて米澤彰賢先生に名城大学電気電子工学科のあゆみを「解説」していただきました。名城大学建学初期の写真解説では、当時の研究室実験装置など感慨深くお話しいただきました。午後5時から鼓の間に於いて記念講演としてCBCアナウンサー小堀勝啓様にご講演をいただきました。「ほう!そう!放送裏話」～あれやらこれやら40年～というタイトルで、40年という長きにわたって放送業界でご活躍のアナウンサーならではの興味深い裏話をユーモアたっぷりでお話しいただきました。続いて記念式典が同じ会場で開催されました。神田実行委員長のあいさつに始まり、理事長、学部長あいさつと続きました。その後、電気会に功労のあった方へ渡辺会長より感謝状と記念品贈呈がありました。対象者は電気会役員を代表して神田実行委員長に授与されました。名城大学小笠原理事長、電気電子工学科多和田学科長に寄付金が、渡辺会長より手渡されました。会場を明倫の間に移して記念祝賀会が盛大に行われました。総参加者217名一般142名来賓28名役員22名大学院生4名OB教員5名教員16名記念祝賀会は、名城大学出身の津軽三味線奏者杉山大祐様の演奏で始まりました。電気会渡辺会長の開会の御発声ののち、名城大学学歌を名城大学出身のキングレコード歌手杉野裕二様と開米副会長に音頭を取って頂き大きな声で斉唱しました。歓談の途中では、理工学部後援会、大学の先生方、OBの先生方、50周年記念行事委員長、校友会、電気会のメンバーなどから自己紹介とご挨拶を頂きました。また、歌手杉野裕二様に、オリジナル歌を始め皆様がよく聞いたことがある歌を10曲程度歌唱して頂き、歓談の時間がない程の好評でした。電気電子工科学科長の呼びかけで、電気電子工学科のOB教員がひな壇にならび、それぞれご挨拶を賜りました。その後、現役教員全員がひな壇に並び、代表で、下山前学長のご挨拶を賜りました。校友会三重県支部副会長岡村様(第13代応援団長)と電気会役員が壇上に上り、名城大学の応援歌を斉唱し大変盛り上がりしました。最後に、副会長の開米様に張り切って締めを行って頂きました。参加者へ配られた立派な50周年記念誌は、記念誌委員会のみなさんが数年前より準備され完成した記念品で、米澤先生はじめとして諸先輩の多くにご指導をいただいて完成されました。その紙面は充実し一生の記念として後世に残るものとなりました。電気会創立50周年記念行事を前に、出席された皆様は、同僚・先輩・後輩・其々の会社の電気会の皆様をお誘いして頂くお骨折りをいただき盛大な式典が催されたことは感激であったと参加された諸先輩よりお話がありました。今後とも60年、100年と、長きにわたり電気会の繁栄を祈念したいと存じます。各位におかれましては、引き続きよろしく、お引き立てのほど、よろしくお願い申し上げます。



記念式典風景



開会挨拶をおこなう渡辺電気会会長



電気電子工学科多和田学科長挨拶



写真解説をおこなう米澤先生



キングレコード歌手杉野様(左)と開米副会長(右)の音頭で学歌を斉唱



記念講演をおこなう小堀アナウンサー



現役教員全員がひな壇にならび



津軽三味線奏者杉山大祐様と役員の皆様



校友会三重県支部副会長岡村様と電気会役員の名城節

役職等	氏名
電気会会長	神田 善郎
電気会会長	岩室 隆
電気会会長	伊藤 栄
学内幹事	池田 晋
学内幹事	河村 英昭
学内幹事	河村 一
学内幹事	大江 俊美
学内幹事	米澤 彰賢
学内幹事	鳥居 甫吉
学内幹事	山崎 初夫
電気会副会長	水野 光雄
電気会副会長	田中 祥弘
電気会副会長	葛西 崇吉
電気会副会長	諸戸 勤
電気会副会長	河邑 秀康
電気会副会長	開米 和明
電気会副会長	松野 一彦

## 第19回名城大学電気会新春懇談会開催

日時：平成26年2月15日(土)16時～19時  
 場所：名城大学タワー75 15階レセプションホール  
 内容：ミニ講演 研究実験棟Ⅱ(K棟)2F多目的室(K261)  
 講師：米澤 彰賢 先生 題目：名城大学の思い出の写真  
 パーティー(タワー75 15階レセプションホール)  
 参加者70名 一般：25名 来賓：14名 役員：17名  
 大学院生：1名 OB教員：1名 教員：12名

新春懇談会は、皆様のご尽力ご協力により第21回を迎えることができました。今年は、新しく建設された研究実験棟Ⅱ(K棟)の見学をかねて開催場所は名城大学で開催しました。パーティー会場はタワー75 15階レセプションホールと致しました。ご来賓の皆様をはじめ、多くの方々にご参加頂き、心より深く感謝いたしております。

今年は、電気会の若年層の活性化を図るため、昨年3月に卒業された皆様(新規会員)の参加費を半額に、また、大学院生(M2)については無料としました。それに学内幹事の村田先生をはじめ、多く先生のご協力により、両方で13名の方に参加して頂きました。ここ数年で大学のOBの先生が多く退職されたので、卒業された当時の思い出話を花を咲かせられると思い、参加して頂くように郵送にてお願いいたしました。それに大学の先生方も多くの皆様に参加して頂きました。その結果、OBの先生と大学の先生を合すると12名になりました。

まず新春懇談会に先立ち、新しく建設された研究実験棟Ⅱ(K棟)見学会が開催されました。都市基盤デザイン科の先生にご案内をいただき興味深い施設の数々についてご説明いただきました。

次に新春懇談会のミニ講演会は、米澤彰賢先生にお願いし「名城大学の思い出の写真」という題目で、名城大学電気電子工学科のあゆみを「解説」していただきました。名城大学建学初期の写真解説では、当時の研究室実験装置など、感慨深くお話しいただきました。

パーティーは、名城大学学歌を副会長の開米様に音頭を取って頂き大きな声で斉唱しました。続いて電気会会長、電気電子工学科長、理事長、理工学部長、校友会会長代理から挨拶を賜りました。その後、理工同窓会会長より理工同窓会の各学科同窓会長の紹介を行い、盛大に乾杯のご発声頂きました。歓談の途中では、理工学部後援会、大学の先生方、OBの先生方、電気会のメンバーなどから自己紹介とご挨拶を頂きました。応援団員が前で手振りを入れながら名城大学の応援歌を斉唱し大変盛り上がりしました。最後に、相談役の伊藤栄様に張り切って締めを行って頂きました。



## 平成24年度 卒業証書授与式および祝賀パーティー

<卒業証書授与式>

日時：平成25年3月19日(火)13時30分～15時30分  
 場所：名城大学共通講義棟 N201室

<祝賀パーティー>

日時：平成25年3月19日(火)16時～18時  
 場所：名城大学6号館1階 グラン亭

名城大学全体の卒業式が愛知県体育館で行われた後、名城大学天白キャンパスに戻り共通講義棟のN201室で電気電子工学科の卒業証書授与式が行われました。

はじめに、多和田学科長からお祝いの言葉が贈られました。親・家族、お世話になった恩師(ゼミナールの先生)への感謝の気持ちと社会に出ることの厳しさや職場での心構え、名城大学の卒業生としてプライドを持って頑張りたいとお話をされました。

次に、電気会会長渡辺よりお祝いの言葉をお贈りしました。電気会の活動について、若い方が参加しやすい研究室ソフトボール大会、新春懇談会への参加を要請すると共に電気会会費納入に関してお願いいたしました。

祝辞が終わり、学科長から学位記を卒業生全員に手渡されま



した。卒業研究発表および大学院生修士研究発表で優秀な成績を取られた方々に、表彰状の授与が行われ、電気会からもお祝いとして図書券5,000円をお渡ししました。また電気会から卒業生全員にお祝いとして名刺入れをプレゼントしました。

今年も、大変有難いことに、先生方のご協力によって卒業生のほぼ全員に電気会へ入会していただきました。心より感謝しております。

卒業証書授与式の後には、場所を名城大学6号館1階グラン亭へ移して卒業祝賀パーティーが行われました。電気会学内幹事の村田先生が司会を行い、学科長、電気会会長が順に挨拶を行いました。

次に、教員の代表として下山先生と、OB代表としての開米副会長の挨拶があり、乾杯は、電気電子工学科教授の大野先生に行って頂きました。

会の途中では、卒業生代表と修士修了生代表の挨拶がありました。また、研究室毎に壇上に上がり、ご担当の先生からの研究室の紹介並びその記念撮影が行われました。

最後に名城節を全員で肩を組んで斉唱し、大変思い出に残る、楽しいパーティーになり、大学と電気会との絆がより一層深められたと感激しています。卒業生の皆様には、これから社会で大いに活躍されることを期待いたします。

名城大学電気会のホームページに掲載しますので、当日参加された皆様および関心のある方は、是非ホームページをご覧ください。

## 平成25年度 卒業証書授与式および祝賀パーティー

<卒業証書授与式>

日時：平成26年3月19日(水)13時30分～15時30分  
 場所：名城大学共通講義棟 N201室

<祝賀パーティー>

日時：平成26年3月19日(火)16時～18時  
 場所：名城大学6号館1階 グラン亭

名城大学全体の卒業式が愛知県体育館で行われました。校友会の座席にはスペシャルカミングデーで招かれた諸先輩の姿もありました。その後、名城大学天白キャンパスに戻り共通講義棟のN201室で電気電子工学科の卒業証書授与式が行われました。

はじめに、多和田学科長からお祝いの言葉が贈られました。親・家族への感謝の気持ちと、社会に出ることの厳しさや、ビジネスマンとしての人付き合いが苦手な人でも進んで立ち向かわないといけないとの教えや、名城大学の卒業生としてプライドを持って頑張りたいとお話をされました。

次に、電気会会長代理で副会長の常田よりお祝いの言葉をお贈りしました。お世話になった恩師(ゼミナールの先生)への感謝の気持ちを表すことおよび、電気会の活動について、若い方が参加しやすい研究室ソフトボール大会、新春懇談会への参加を要請すると共に電気会会費納入に関してお願いいたしました。

祝辞が終わり、学科長から学位記を卒業生全員に手渡されました。卒業研究発表および大学院生修士研究発表で優秀な成績を取られた方々に、表彰状の授与が行われ、電気会からもお祝い

して図書券5,000円をお渡ししました。また電気会から卒業生全員にお祝いとして名刺入れをプレゼントしました。

今年も、大変有難いことに、先生方のご協力によって卒業生のほぼ全員に電気会へ入会していただきました。心より感謝しております。

卒業証書授与式の後には、場所を名城大学6号館1階グラン亭へ移して卒業祝賀パーティーが行われました。電気会副会長の開米が司会を行い、電気会会長代理の常田が挨拶を行いました。

次に、退職教員の下山先生と林先生のご挨拶をいただき、電気会より両先生に事前にお花を送り、慰労金を贈りました。乾杯は、電気電子工学科教授の辰野先生に行って頂きました。

会の途中では、卒業生代表と修士修了生代表の挨拶がありました。また、研究室毎に壇上に上がり、ご担当の先生からの研究室の紹介並びその記念撮影が行われました。

最後に名城節を全員で肩を組んで斉唱し、大変思い出に残る、楽しいパーティーになり、大学と電気会との絆がより一層深められたと感激しています。卒業生の皆様には、これから社会で大いに活躍されることを期待いたします。



## 研究室紹介 エネルギー・環境研究室

### 大野 英之 教授

落雷や台風などで送電線に短絡や地絡が発生すると、何万アンペアもの膨大な電流が流れ、発電機や変圧器などの電力機器が焼損します。電力用遮断器とは、この膨大な短絡電流や地絡電流を直ちに切るためのスイッチのこと。電力の安全・安定供給のための機器として欠かすことのできないものになっています。そこで当研究室では、電力用遮断器の高性能化をめざして、マイクロ波による電子密度の診断などの遮断実験や環境低負荷ガスの遮断能力に関する研究、遮断器の電極消耗量に関する研究などを行っています。



遮断実験用の配電盤

### 清水 教之 教授・村本 裕二 准教授

電気エネルギーの発生や貯蔵、輸送、変換を環境にやさしく行うための材料工学の研究に取り組んでいます。一つは、電気を通さない絶縁材料についての研究です。発電所で作られた電気は送る途中の損失を少なくするため、電圧を高くして送ります。その電圧は何10万ボルトに及び、電気絶縁材料が劣化するとやがて絶縁破壊に至り、機器の焼損につながります。当研究室では、このような絶縁劣化と深く結びついた電界発光についての研究を行うとともに、植物油や水など環境にやさしい新たな電気絶縁材料の開発を行っています。

もう一つは、電気を貯める電気二重層キャパシタについての研究です。科学反応を利用して蓄電する電池に対し、コンデンサは電気を電気のまま蓄えます。その容量の非常に大きなものがスーパーキャパシタであり、当研究室では、スーパーキャパシタの高性能化をめざした研究にも取り組んでいます。



沿面放電の様子

### 山中 三四郎 教授

太陽光発電の急速な普及にともない、数々の問題点が浮上しています。その一つに、運用中の太陽光発電システムの評価・診断の難しさがあります。太陽光パネルは住宅の屋根に設置されることが多いため、表面が壊れたり汚れたりしても簡単には分かりません。しかも、発電量は季節や天気によって大きく変化するので、単に発電量をモニターするだけでは、太陽光パネルなどの故障を見つけることは困難です。そこで当研究室では、太陽光発電システムの評価・診断方法についての研究を実施。これまでに、太陽電池の特性であるI-Vカーブを用いる方法や発電量をシミュレーションするソフトウェアを使った方法などを提案してきました。



本研究室所有の太陽光発電システム

### 飯岡 大輔 准教授

太陽光発電や風力発電などに代表される再生可能エネルギー発電には、エネルギー枯渇に対する問題を解決できる可能性がある一方で、電力システムの運用方法は大変複雑なものとなります。当研究室では、再生可能エネルギー発電が大量に導入される将来を想定し、各家庭に供給される電力の電圧や周波数に与える影響を最小限に抑えるための技術や落雷などによる系統故障に拠るトラブルを回避する技術の開発を通じて、電力システムの持続可能でスムーズな運用をめざしています。



次世代電力システム模擬装置

## 研究室紹介 電子物性・デバイス研究室

### 大江 俊美 教授・児玉 哲司 教授

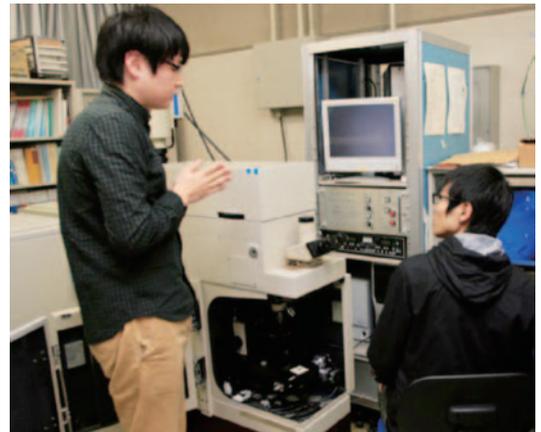
電子顕微鏡は、パソコンなどの電化製品に数多く使われているトランジスタ・集積回路などの半導体デバイスの研究開発過程や製造における品質管理になくてはならない存在です。通常、顕微鏡は光を使いますが、電子顕微鏡は光に比べて波長が短い電子を使うため、より小さな物を観察することが可能です。当研究室では、電子顕微鏡の高機能化・高性能化をめざし、電子銃や検出器、信号処理システムの開発、真空中の電子の振る舞いの解析、ナノ構造の計測技術開発などに取り組んでいます。



冷陰極フィールドエミッション電子銃とPC制御による操作系を備えた走査電子顕微鏡

### 平松 美根男 教授

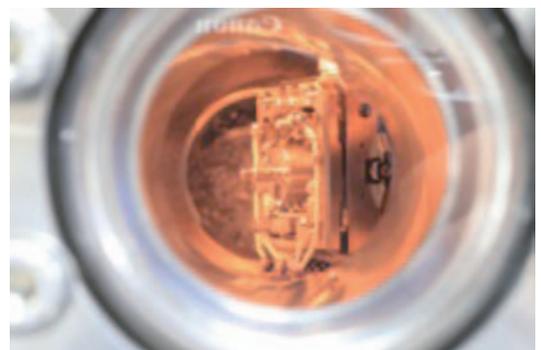
プラズマ化学気相堆積法という手法を用いることにより、メタンと水素の混合ガスから、ダイヤモンドやカーボンナノウォール、カーボンナノチューブなどのカーボン構造体を創製しています。現在は、これらカーボン構造体のすぐれた特徴を応用した次世代電子デバイスの開発に注力。ガスセンサやバイオセンサ、燃料電池など、カーボンナノウォールやカーボンナノチューブを利用した種々の新しいデバイスの実用化には大きな期待が寄せられています。



カーボン構造体の解析に用いるラマン・フォトルミネセンス測定装置

### 村田 英一 准教授

有機ELディスプレイは、スマートフォンやタブレット向けの次世代ディスプレイとして期待されています。これに対し、電界放出ディスプレイは、薄型大画面の次世代ディスプレイとして期待されています。その原理は、平面状のフィールド・エミッション電子源から真空中に電子を放ち、蛍光体にぶつけて発光させるというものです。当研究室では、平面状のフィールド・エミッション電子源となるフィールド・エミッタ・アレイやカーボンナノチューブの形状や配置を最適化するために、マルチエミッタの評価技術やフィールド・エミッションのシミュレーション技術の開発を行っています。

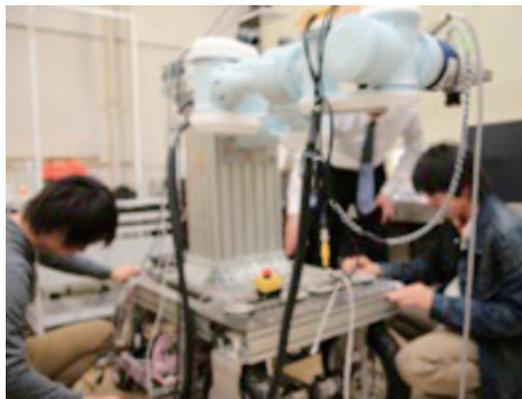


マルチエミッタ評価装置

## 研究室紹介 システム・情報通信研究室

### 辰野 恭市 教授

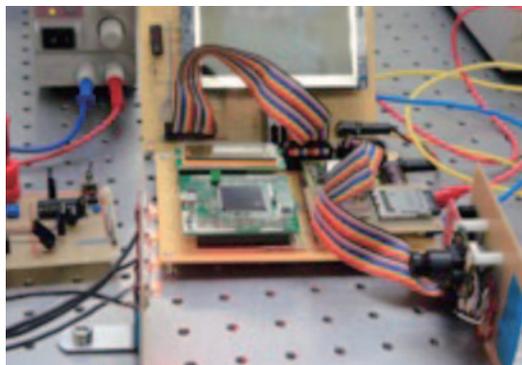
安定した電力供給を維持するため、電線や変圧器の取替えなど、電柱まわりの工事にともなう配電作業は、街中のいたるところで行われています。配電作業では、電線や変圧器など重量物を取り扱いますが、電気を送ったまま電柱上で行われるため、作業者は感電の危険に晒されています。そこで、感電、墜落防止のために、配電作業のロボット化が進められています。その一つに、遠隔操作作業ロボットがあります。しかし、遠隔操作ではロボットアームを人の腕のように器用に動かすことが難しい上に、作業環境を提示する表示機器の視野が狭く操作しづらいといった問題がありました。そこで当研究室では、電柱の周囲条件を検知し、周囲条件と電線や変圧器の空間を考慮して配電作業をする半自律的なロボットの開発を行っています。



半自律的な配電作業ロボット

### 中條 涉 教授

無線周波数が30GHz以上のミリ波や光は、携帯電話やテレビ放送のように遠くまでは届きませんが、近距離なら大容量の通信やセンサーを実現できると期待されています。当研究室では、波長多重という光通信技術の特長を最大限に活用して、半導体レーザーと光ファイバーを用いたミリ波の位相制御と電力合成の研究を行っています。また、光を使った無線通信システムの研究では、32bitマイコンを用いて、CMOSカメラで撮った画像をリアルタイム処理し、多数の発光ダイオードからなるLED照明を個別に認識できる可視光通信システムの開発を行っています。さらに、アジアの通信衛星の信号を継続的に受信し解析を行うことで、ミリ波衛星通信ネットワークの開発も進めています。



CMOSカメラと32bitマイコンを用いたLED可視光通信システム

### 都竹 愛一郎 教授

東京スカイツリーの基幹となっている地上デジタル放送のシステム開発に携わってきましたが、地上デジタル放送については、いまだ正確な周波数の測定法や電波の受信環境の評価法が確立されていません。そこで、新しい周波数の測定法や受信環境の評価法を開発し、その有用性を実証することで、地上デジタル放送の発展に寄与することをめざして研究に取り組んでいます。また、太陽光発電を動力源とする航空機、ソーラープレーンや飛行船を無線通信や放送の基地局として利用する研究も進めています。



受信環境の評価

### 堀田 一弘 准教授

コンピュータに人間のような知力を持たせたいというのは長年にわたる人類の夢です。そうした試みのひとつとして、当研究室では、コンピュータに学習能力や認識能力を付与するパターン認識と呼ばれる分野の研究を行っています。コンピュータはあらかじめプログラムされたこと以外ではできないため、対象の見え方や周囲の環境が変化した場合には、正確な認識ができなくなってしまいます。そこで、脳科学、心理学、統計物理学、制御工学などの異分野の知見をヒントにパターン認識の方法を考えることにより、従来よりも見え方や環境の変化に左右されにくい認識法を開発しています。さらに、建築材料中に含まれるアスベストを自動検出したり、細胞内画像から特定の対象だけを計数するなど、これまでパターン認識技術が利用されてこなかった分野への応用も行っています。



アスベスト検出の例 (赤い枠で囲われた部分が自動的に検出されたアスベストです)

## 研究室紹介 電子生命情報研究室

### 伊藤 昌文 教授・太田 貴之 准教授

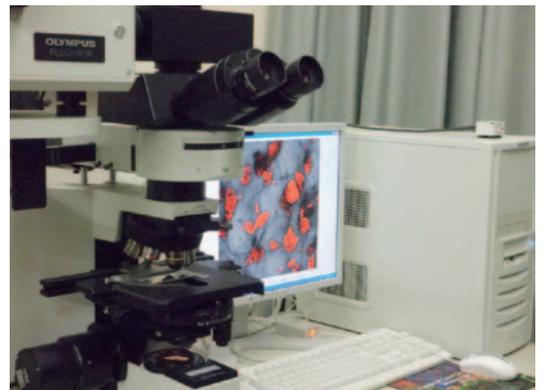
プラズマとは原子や分子から電子が離れてバラバラになっている電離気体であり、同一の空間の中に+の電荷を持つ原子や分子と-の電荷を持つ電子が別々に飛び交っています。全体としては±0ですが、個々の粒子を見ると+または-のどちらかになるという特徴を持っています。電荷を持つ粒子が動いているということは電磁場を発生させるということであり、ディスプレイや光源、半導体デバイスの製造工程などで用いられてきました。近年、プラズマを大気圧下、低温で生成する技術が開発され、医療をはじめとする様々な分野に応用されつつあります。当研究室では、高密度の低温大気圧プラズマを生成する技術を開発し、バイオ関連や環境関連など多岐に渡る分野で、その技術の応用を進めています。また、プラズマを計測する技術を活かし、半導体デバイスの製造工程などで必要とされる新たな光センシングシステムの開発なども行っています。



プラズマなどを扱うクリーンルーム

### 多和田 昌弘 教授

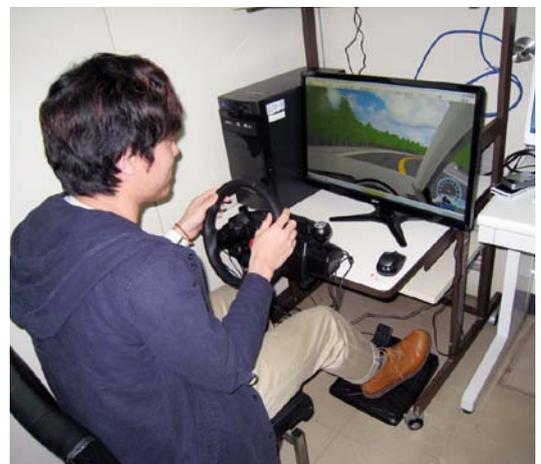
光は電磁波の一種であり、人間の目が感じることのできる電磁波です。光の性質である屈折や干渉を使った顕微鏡は、微生物学の基本といわれるように、バイオイメージングなどに広く活用されてきました。当研究室では、共焦点レーザー顕微鏡や光音響顕微鏡を利用し、光合成が行われる植物細胞内にある葉緑体の観察を行っています。共焦点レーザー顕微鏡は、試料の特定の狭い範囲に焦点を合わせ、像を検出します。厚い試料でも焦点の合った画像が得られ、また、試料の様々な箇所の画像を再構築することで、三次元イメージを作成することができます。光音響顕微鏡は、試料に吸収された光のエネルギーが熱となり、試料自体の膨張や周辺気体の膨張によって生じる音波を測定することで、試料表面や内部の様々な情報を取得することができます。



共焦点レーザー顕微鏡による葉緑体の観察

### 山崎 初夫 教授

日本では、平成23年度に65歳以上の高齢者人口が総人口の23.3%に達し、超高齢社会を迎えています。交通事故死者数のうち、平成23年度は高齢者がほぼ半数を占めており、高齢者の交通安全対策は重要な課題となっています。当研究室では、高齢者が自立し、いきいきと生活できる社会の実現に向けて、高齢者ドライバを支援するための運転シミュレータの開発や、その評価などを進めています。また、大学での授業を支援するためのeラーニングの研究も行っています。eラーニングとは、主にインターネットを利用した学習形態で、各生徒の理解度に応じた学習の内容を、状況に合わせて提示することができます。当研究室では、このeラーニングの教材作成や評価なども行っています。



ドライビングシミュレータ

## 新企画 OBインタビュー



株式会社 ニデック  
小林 正彦

私は、1976年（昭和51年）に入学し1980年に卒業しました。当時の大学構内は今とは大きく異なる景色でした。現在の最寄り駅である塩釜口駅は私が三年の頃に開通し、2年までは八事駅から徒歩で通学していました。さらに入学当初は、千種駅からバスでしか交通手段がなく、今や立派なタワー75などを有す素晴らしいキャンパスとなり、現在の環境が羨ましい限りです。しかし昨年、久しぶりに大学を訪問した際、2号館だけは以前のままでとても懐かしく、館内を歩き30年間ほど時間を遡ったように感じました。

私が電気工学科4年の時に所属していた縄田研究室で、当時もっとも怖いとされた教授の指導を1年間受ける事になりました。そこで、私は仲間と共に高電圧材料の耐圧性能を調べる実験に日々明け暮れました。各種のポリマー素材とその誘電率等を変化させつつ、高電圧を材料に照射し、その誘電状態を顕微鏡で調査記録し、その変化を研究していました。今となってはその研究を利用する機会はありませんが、当時の仲間と密度の濃い時を過ごし、良い友人関係を築くことが出来ました。

4年後半になり就活時期を迎えました。現在のように何社もエントリーして会社訪問や説明会を繰り返すという時代ではなく、教授の推薦により入社するというのが一般的でした。私も一社紹介を頂き入社試験を受けずなりその企業に入社するつもりで不安もなく、卒業前の時間が経過していました。

卒業を控え、時間もあつた事もあり、地元の会社でアルバイトを始めました。田舎にある小さな会社ということもあり、小遣い稼ぎの感覚で仕事をしていました。そのなかで偶然先輩から話を聞く機会があり、ユニークな発想を大切にしているこの会社に惹かれていく自分に気づきました。

実は、このアルバイトをした会社が今の勤務先である株式会社ニデックです。創業者達の持つ光学電気機械技術を活用した医療機器を、開発製造販売していきたいと私も考え、3月になり、教授に予定していた企業は辞退したい旨を相談し了承を得て、入社に至りました。

入社当時は、100人程度の規模で先輩達が開発した眼の屈折力を測定する装置が大ヒットし、その製造が追いつかず私は新入社員でありながらいきなり医療機器という重要な装置の製作に携わり、大学の時とは異なる体験をしました。そして6月頃には、会社が多くの人材獲得に乗り出し、直ぐに先輩社員という立場になりました。やがて製造体制が整った秋口には、更に後輩社員が増えたことで増産・販売増を実現しました。その後、私は新しいプロジェクトの開発に携わる事になりました。それは、半導体の検査装置

であり、今まで関わっていた医療機とは異なる分野の工業製品の開発製造でした。

新しい分野の事業を入社数年の社員でチャレンジをするという、今から思うととても無謀な経験でした。この後10年ほど私が関わることになる半導体事業は当時、国の支援もあり、新しい産業のコメとして注目されていました。多くの企業が力を注ぎ、日本中に巨大な半導体工場が作られ、日本が世界の半導体をリードする時代となり、我々が開発した装置もこれらの新しい半導体工場に続々と採用されました。人手も十分に無く、納入設置、調整説明と最先端工場に出入りして伸び盛りの半導体業界を目の当たりにし、多くの新しい電気電子工学知識を得ました。

ちょうど日本の半導体事業が最盛期を迎えた頃、再び別の事業に携わる事になりました。メガネに使うレンズをフレームに合う形状に加工する装置の開発に関りました。当時は、職人の腕がモノを言う時代であり、これをコンピュータ制御のメカトロ機器で誰でも簡単にできるよう目指したのです。当初は課題も多く1世代目は上手くいかず販売後はクレームの嵐でした。2世代目で多くの課題を解決し商品の普及に繋がりました。

私の幸運は、このメガネ業界の変遷の時代に遭遇出来たことです。

レンズ加工機も業界トップに肉薄するまでになったのは、2004年頃。日本でも電子カルテという言葉が聞かれるようになり、当社もこの事業に乗り出し、その開発責任者として再び全く新しい開発にチャレンジする事になりました。開発は成功し時代の波とも合い事業としても成果を上げることで、個人的には電気工学とは異なる情報工学の知識経験を得る事が出来ました。

その後、眼科の検査診断機器も画像診断という時代に突入し、眼底画像診断機器の開発を行うことで、眼科の新たな診断手法の開発に貢献出来ました。特に光コヒーレンストモグラフィ（OCT）という技術により開発したOCTは大ヒットしてリーマン・ショック後の会社として苦しい時期を支える事が出来ました。

このように大学卒業後、偶然の経緯で入社した企業で上記の様な複数の異なる分野の仕事をする中で得たものは「複数の知識経験」「人脈」「技術者として働く意義」の3点でした。これは巡りあわせの結果でもありますが、その時々を得た機会に面白さを見つけそこに挑戦していく事で、チャンスや成果が舞い込んで来るものだと人生の絵図を思い浮かべている所です。

Eye & Health Care  
NIDEK NIDEK CO., LTD.



## 事務局から重要なお知らせ

### 1. 電気会ホームページのリニューアル

平成26年4月1日から電気会のホームページが新しくなりました。

名城大学電気会ホームページ URL:<http://www.meijo-denkikai.jp>

電気会会員情報の更新入力をお願い

新会員になられた方や、引っ越し等で住所等が変わられた方は、HPより会員情報を更新下さい。

電気会会員は12000人の情報が古くなっていますので、すべての会員におかれては改めまして、ホームページより現在の情報を入力して下さいます様お願いします。

### 2. 電気会会誌の送付について

電気会では経費節減のため、会誌発行部数をできる限り削減したいと考えております。

つきましては、今後も会誌送付をご希望される方は、本会誌に同封されているはがきに、その旨をご記入のうえ、事務局までご返送いただきますよう、お願い申し上げます。なお、はがきをご送付いただけない場合は、会誌の送付を希望されていないものといたしますので、ご了承願います。

## 平成24年度 修士論文優秀発表賞 (大学院生4名)

安藤 睦	アークプラズマ中の単層カーボンナノチューブ成長メカニズムに関する研究
土屋 龍平	水 - アルコール混合系の交流絶縁破壊特性
久保 光司	分散電源用ハイブリッド形インバータに関する研究
杉村 慎治	地上デジタル放送波の到来方向推定に関する研究

## 平成24年度 卒業論文優秀発表賞 (学部卒研究生6名)

新美耕太郎	光音響分光装置の小型化
青木 佑馬	インラインフレネル電子線ホログラフィによる微粒子像の検討
続木 裕之	数値流体解析による平板状消弧室の形状最適化の検討
林 真輝	非平衡大気圧プラズマを用いたトマト中のミネラルモニタリングに関する研究
正田 竜也	デジタル放送受信機の受信性能の改善 ~復号アルゴリズムの改良~
田村 拓也	NaCl水溶液中の電気2重層形成に及ぼす濃度の影響

## 平成25年度 修士論文優秀発表賞 (大学院生3名)

熊谷 章平	識別器及び回帰分析を用いた細胞内画像中の輝点計数
村上 祐一	高電界パルスを用いた液体中の大腸菌の殺菌
田尻 洋平	地絡事故発生時における高圧気中負荷開閉器の保護性能に関する基礎研究

## 平成25年度 卒業論文優秀発表賞 (学部卒研究生6名)

宇佐美拓也	周波数領域型低コヒーレンス干渉法を用いたウエハ温度の空間分布測定システムの開発
兼松 正行	CMOSカメラとFPGAを用いた白色LED並列可視光通信システムの高速化、多値化、高品質化に関する研究
辻元 康了	Bag of Words を利用した嗜好学習型の注視物推定器の作成
山田 健人	SEMによる各種金属の全電子放出率の測定および絶縁物の観察
岩本 翔太	カーボンナノウォールを用いた固体高分子形燃料電池の作製
磯村 晃也	低圧用STATCOMの無効電力補償能力と機器効率の改善

## 平成24年度・平成25年度 事業報告 (期間:各4月1日~3月31日)

### <平成24年度事業報告>

- 第46回電気会総会・理工同窓会総会 平成24年6月17日(日) 午前9時30分~午後2時30分 電気会総会 名城大学 共通講義棟南館S401室 理工同窓会、講演会 名城大学 共通講義棟南館S201室 理工同窓会懇親会 タワー75 15階レセプションホール
- 研究室対抗ソフトボール大会支援とOBチーム参加 平成24年9月8日(土) 参加者 13名
- 電気電子工学科先生との情報交換会 平成24年11月15日(金) タワー75 15階レセプションホール 参加者 OB 13名 教員 15名
- 名城大学電気会創立50周年記念 平成25年1月27日(日) 15時30分~20時00分 場所 名古屋ガーデンパレス 参加者 217名
  - 第1部 「思い出の写真」 講演者 米澤彰賢(元電気電子工学科教員)
  - 第2部 「ほうそう!放送裏話」~あれやら これやら 40年~ 講演者 小堀勝啓(CBCアナウンサー)
  - 第3部 記念式典・記念祝賀会 杉山大祐(三味線)・杉野裕二(歌手) 創立50周年記念誌 発行
- 電気電子工学科 卒業証書授与式 平成25年3月19日(火) 卒業証書授与式 名城大学共通講義棟南館S102室 卒業記念品授与 名刺入れ(電気会からの記念品) 卒業論文発表会、修士論文公聴会 優秀発表者10名に図書券を電気会から進呈 卒業祝賀会(電気電子工学科との共催) 名城大学 グラン亭
- 役員会、評議員会開催 1回/月 役員会8月6日、9月25日、10月26日、12月17日、1月22日、2月25日、4月26日 評議員会 5月10日
- 卒業論文発表会 平成25年2月23日(土)平成25年2月25日(月) 参加者 5名
- 行事参加
  - 名城Day 平成24年9月23日(日) 名城大学太白キャンパス
  - 卒業30周年ホームカミングディ 平成24年11月24日(土) 名城大学太白キャンパス 電気会会員より8名参加
  - 校友会さんすい会への講師派遣
    - 平成24年6月20日(水) 伊藤 公一 副会長「電気設備における最近のトピックス」
    - 平成24年8月22日(水) 伊藤 栄 相談役「新東名高速道路における情報提供の新たな取り組み」
    - 平成24年9月19日(水) 松野 一彦 副会長「ベトナムにおける電解ベンチャー起業」
    - 平成25年2月20日(水) 常田 勝男 副会長「エンジン生産ラインにおける生産システムと統合生産管理システム事例」

### <平成25年度事業報告>

- 浜岡原子力発電所視察会 平成25年6月9日(日) 参加者16名 講演:海上自衛隊ソバリア海賊対処行動体験談 講師第203教育航空隊司令清水一等海佐
- 第47回電気会総会・理工同窓会総会 平成25年6月16日(日) 午前9時30分~午後2時30分 電気会総会 名城大学 共通講義棟南館S401室 理工同窓会、講演会 名城大学 共通講義棟南館S201室 理工同窓会懇親会 タワー75 15階レセプションホール
- 研究室対抗ソフトボール大会支援とOBチーム参加 平成25年9月21日(土) 参加者17名
- 第19回名城大学電気会新春懇談会 平成26年2月15日(土) 15時00分~19時00分 場所 名城大学太白キャンパス 参加者74名 見学会 場所:研究実験棟II(K棟)
  - 第1部 ミニ講演会「名城大学の思い出の写真」 場所:研究実験棟II(K棟) 2階多目的室(K261) 講師 米澤彰賢(元電気電子工学科教員)
  - 第2部 懇談会(電気会への入会初年度のみ会費半額) 場所:タワー75 15階レセプションホール
- 電気電子工学科 卒業証書授与式 平成26年3月19日(水) 卒業証書授与式 名城大学共通講義棟北館N201室 卒業記念品授与 名刺入れ(電気会からの記念品) 卒業論文発表会、修士論文公聴会 優秀発表者10名に図書券を電気会から進呈 卒業祝賀会(電気電子工学科との共催) 名城大学 グラン亭 電気会参加者6名、来賓3名、大学卒業129名大学院卒業15名大学関係者15名 総参加者数168名
- 役員会、評議員会開催 1回/月 役員会7月30日、8月28日、9月25日、11月5日、12月16日、1月28日、2月26日、3月25日、4月2日、5月9日 評議員会 5月16日
- 卒業論文発表会 平成26年2月22日(土)平成26年2月24日(月) 参加者5名
- 行事参加
  - 卒業30周年ホームカミングディ 平成25年12月7日(土) 名城大学太白キャンパス 電気会会員より8名参加
  - 校友会さんすい会への講師派遣 平成25年5月15日(水) 広倉 寛 「核融合について」 平成25年12月18日(水) 佐藤 一彦 「重電産業の技術動向と将来展望」

## 平成26年度 事業計画 (期間:平成26年4月1日~平成27年3月31日)

- 平成26年度に卒業された方は、電気会の会員となる。
- 就職説明会への講師派遣等
- 企業への求人活動支援
  - OB企業、今までの支援企業の優先求人活動を支援。
- その他一般行事
  - 第48回電気会総会・理工同窓会 平成26年6月15日(日)
  - 電気電子工学科先生との情報交換会
  - 研究室対抗ソフトボール大会支援とOBチーム参加 平成26年9月予定
  - 卒業式(卒業証書授与式)参加
  - 卒業祝賀会電気電子工学科との共催
  - 卒業研究発表への電気会から聴講
- 役員会 1回/隔月、評議員会 1回/年
  - 専門委員会(総務委員会・行事委員会・企画委員会・会報委員会)は、随時開催
  - ホームカミングディ等大学主催行事に参加
  - 名城大学校友会主催のさんすい会への講師派遣
  - 電気会会誌の発行(平成26年5月発行)
- 電気会ホームページのリニューアルと記載内容更新のためホームページが見えなくて郵送を要望する方のみ削減したい。
- 第20回名城大学電気会新春懇談会
  - 日時 平成27年1月24日(土) 17時30分~20時30分
  - 場所 名古屋栄 名古屋ガーデンパレス
  - 第1部 ミニ講演会「先進医療機器開発事例」 講師 株式会社ニデック 小林正彦様
  - 第2部 懇親パーティー

平成 24 年度名城大学電気会会計報告  
(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

Table with 4 columns: 項目, 予算, 決算. Rows include 前年度繰越金, 新入会員会費, 会報広告費, 雑収入, 合計.

※1: 理工同窓会交付金 426,500円を含む  
年度内収入 1,980,291円

Table with 4 columns: 項目, 予算, 決算. Rows include 会議費, 学生会員援助費, 新入会員援助費, 会報印刷費, 慶弔費, 通信費, 行事費, 事務費, 50周年記念行事費, 予備費, 小計, 次年度繰越金, 合計.

平成25年度名城大学電気会会計報告  
(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

Table with 4 columns: 項目, 予算, 決算. Rows include 前年度繰越金, 新入会員会費, 会報広告費, 雑収入, 合計.

※1: 理工同窓会交付金 860,000円を含む  
年度内収入 2,469,958円

Table with 4 columns: 項目, 予算, 決算. Rows include 会議費, 学生会員援助費, 新入会員援助費, 会報印刷費, 慶弔費, 通信費, 行事費, 事務費, 予備費, 小計, 次年度繰越金, 合計.

ホームページリニューアル費用を会報印刷費で計上

平成26年度名城大学電気会会計予算案  
(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

Table with 4 columns: 項目, 予算. Rows include 前年度繰越金, 新入会員会費, 会報広告費, 雑収入, 合計.

Table with 4 columns: 項目, 予算. Rows include 会議費, 学生会員援助費, 新入会員援助費, 会報印刷・ホームページ費, 慶弔費, 通信費, 行事費, 事務費, 予備費, 小計, 次年度繰越金, 合計.

評議委員会の議を経て予備費を他の項目に流用できる

会計監査報告

諸帳簿の記載、現金、貯金等の額に誤りの無いことを確認した。

会計の運用は全面的に良好であることを認める。

以上の結果、本会の財産管理は適正であることを認める。

平成 26 年 5 月 9 日

会計監査人 葛西 栄吉 印 河邑 秀康 印

平成 26 年度名城大学電気会役員 (案)

Table with 3 columns: 役員, 氏名, 卒年. Lists members like 名誉会長, 会長, 副会長, 総務委員会, etc.

平成 26 年度電気会評議員 (案)

Table with 2 columns: 氏名, 卒年. Lists members like 久野 重雄, 橋本 善造, etc.

Table with 2 columns: 氏名, 卒年. Lists members like 加藤 潤二, 外山 泰裕, etc.

\*印追加および変更